

# HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2023 Vol.114

P1 特集 社会福祉事業所紹介

自主製品作りに力を注いで自立支援  
社会福祉法人みのり福祉会  
障がい福祉サービス事業所  
就労継続支援B型「向山ブルースカイ」

P5 チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人みのり福祉会  
障がい福祉サービス事業所  
就労継続支援B型「向山ブルースカイ」

P6 福祉専門職の紹介

利用者が“できること”を増やす喜び  
就労継続支援事業所「生活支援員」

P7 福祉人材センター情報

福祉の職場で働きたい方と人材を求める  
事業所との橋渡しをしています

P8 ボランティア・市民活動センター情報

とっとりボランティアバンク登録団体紹介  
特定非営利活動法人  
全国要約筆記問題研究会 鳥取県支部

P9 ボランティア・市民活動センター情報

特定非営利活動法人「ピアサポートつむぎ」  
生きづらさのある子どもや家族の  
“心の居場所”となるように

P11 ことぶき高齢者情報

令和5年度 中部地区高齢者健康運動会

P12 ことぶき高齢者情報

いきいきシニア

P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

おいしい菓子作りを通して広がる輪



# 社会福祉法人みのり福祉会 障がい福祉サービス事業所 就労継続支援B型「向山ブルースカイ」

倉吉市街地を流れる天神川に注ぐ小鴨川と国府川の合流地点にある小高い「向山」の中腹に就労継続支援B型「向山ブルースカイ」があります。見晴らしも良く青い空が広がる開放感あふれる環境の中にある施設では、障がいのある利用者と職員が仲むつまじく、軽作業などに取り組んでいます。主な作業内容は、電子部品や紙器加工などの地元企業からの受託作業と、メインとなっている自主製品作りで、バラエティ豊かな品揃えで好評のお菓子工房「トリシエ」でクレープなどのお菓子製造や販売に励んでいます。



※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

# 自主製品作りに力を注いで自立支援

就労継続支援事業所は、一般企業に就労することが困難な障がい者に、職業訓練や生産活動を支援するサービスです。A型事業所は、障がいがある人が一定の支援を受けながら雇用契約を結んで働くことができます。

一方、B型事業所の「向山ブルースカイ」では、軽作業や訓練などを通じて、就労に必要なスキルが習得でき、雇用契約は結びませんが、年齢制限はなく支援を受けながら自



リズムカルにクレープの生地を焼く利用者

分のペースで働くことができます。また就労支援のみならず、イベント参加やレクリエーションなどで社会参加の機会も多くあります。

## 利用者や職員が一緒に作る人気の菓子

向山ブルースカイの作業内容は、12年目となるお菓子工房「トリシエ」でのクレープ、サブレ、クッキー、ナッツタルト、シフォンケーキなど、菓子類の自主製品製造販売がメインとなり、工賃（利用者への給料）アップにつながっていることが大きな特徴です。

利用者は、計量や製品の袋詰めのほか、焼き菓子の型抜き、クレープの生地焼きも中心となっており、簡単な工程だけを利用者が行うのではなく、職員と協力して作り上げることに努め、材料は「湯梨浜ファーム」の卵、「白バラ乳業」の牛乳など、地元食材にこだわっています。

クレープの生地焼きを担当する

利用者は、フライパン2個を時間差で上手に使いこなし、焼き加減も自分で判断して仕上げています。サブレは素朴な味が好評で、その味が気に入ったと県外の人から手紙やメールが届いたときは「うれしさのあまり飛び上がった」と話します。施設長でサービスマネジメントの尾川友美子さんは笑顔を見せます。また、「甘さを控えたシフォンケーキも、1個を一人で食べ切ってしまうという話を聞きます。そんな美味しさを維持しながら、この地域の菓子工房として皆さまにご愛顧いただけたらうれしいです」と話します。

## 配達や販売と一緒に 出かけて社会参加

販売先は独自で開拓した中部の

社会福祉法人  
みのり福祉会  
障がい福祉サービス事業所  
就労継続支援B型  
「向山ブルースカイ」  
おがわ ゆみこ  
尾川 友美子  
施設長

J-A関係の直売所や道の駅（鳥取市、倉吉市、東伯郡）、倉吉市役所や病院の売店のほか、各種団体や個人からの電話やメールで注文を受けています。倉吉市内の配達や平日のイベント販売には、利用者と職員が一緒に出かけます。



※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。



タルト生地を金型に入れて成形

倉吉未来中心の「なしっこ館」とのコラボ商品「なしっこロール」は、なしっこ館から提供された梨を使用したクレープで、なしっこ館横のフルーツバーラー限定で販売されています。

また、学校や公民館、企業から、売店に置きたい、行事で使いたい、参加賞で出したい、公民館や会社のイベントの際に販売に来て欲しいなどの要望も増えています。

コロナ禍以前は、作品展など施設の行事に地域の人たちも招いて菓子販売を行ったり、学校などの行事に販売で出向いたりしていました。また「手話パフォーマンス甲子園」「食のみやこフェスティバル」「中部あいサポートフェスタ」などの大きなイベントでの販売も行ってきました。

## 交流の機会と利用者サービスの充実

受託作業は、倉吉市内や湯梨浜町内の企業から、段ボール製品などの加工、菓子箱折や割箸入れ、電子部品組立のほか、「農福連携」での大豆や小豆の選別作業を職員と一緒にしています。

職業指導員の榎本宏一さんは「利用者の感情のコントロールと、自分の心のバランスを保って接することが必要で、トラブルの際にも即対応が求められます」と話しながら、「利用者ができなかったことが、できるようになるとうれしくてやりがいを感じます。そして行事のときなどに、笑顔や笑い声が溢れると、とてもいい気持ちで安らぎます」と言います。

施設では、とんど、節分、桃の節句などの行事のほか、花見、年2回の県内の小遠足、県外への社会見学、日帰り旅行などの外出行事と、レクリエーションも多彩に行われています。また「倉吉市身体障害者福祉協会体育大会」に利用者と競技に参加したり、行事の「ポッチャ大会」に法



イベント会場で菓子の販売をする利用者と職員

尾川施設長からのメッセージ

人には誰しも、好き嫌いや得手不得手がありますが、まずは“やってみよう”と思えば、それでもいいと私は思います。某アナウンサーがテレビ番組で、この職に就く前は人見知りで口下手だったと話しており、苦手と思っていることも実はそうではないのかもしれないですよ。

就労支援事業所は、職員も作業に加わって利用者の支援を行うことが多く、皆さんの頑張りを日々感じられます。特に、予想以上に利用者の力で作業が進んだときや、職員で話し合った対応策がうまくいって、利用者との信頼が深まったと思えた時などは、とても充実感があります。

業務は色々あり、職員同士の協力が重要なので、職員同士が気軽に意見や相談ができる環境も大切にしています。当事業所は8時～17時の日中勤務です。オン・オフを切り替えて自分の時間もしっかり取りながら一緒に働きますか。

仕事の難しさとやりがいについて、

難しさを喜びと  
やりがいに代えながら

そして、健康相談(月2回)、健康診断(年1回)、大腸がん・細菌検査(年2回)などの健康管理、カラオケやゲームなどのクラブ活動でのリラックスタイム、送迎、希望者への隣接施設の手作り給食提供、作業服提供など、利用者サービスの充実にも努めています。

の人と協力して作業ができるよう

「コミュニケーションや意思疎通が難しい利用者に理解してもらうにはどうしたら良いのか、関わり方に難しさを感じることはありません」と、支援の難しさを打ち明けます。それでも、利用者が他の人と協力して作業ができるよう

は気持ち新たにします。

「緩やかに」と、尾川施設長は気持ち新たにします。そして、コロナによる行動制限が緩和され「これからもイベントや地域行事などへの参加で、地域の方々との関わりを増やし、菓子製造販売や軽作業で、障がいのある人の就労支援を進め、利用者が力を発揮できる場所、生活の役に立てる事業所づくりを努めたい」と、尾川施設長は気持ち新たにします。



職業指導員の榎本宏一さん

職業指導員の職員に聞きました。西坂孝さんは、「特に発達障がいの利用者は、こだわりの行動があり、同じ返答や促しを必要とすることがあります」としながら、利用者の楽しそうにしている笑顔を見るとやりがいを感じると話します。



職業指導員の西坂孝さん



職業指導員の榎井真実さん

【概要】

- 所在地/鳥取県倉吉市和田東町字向山914-58-2
- 開設日/1991(平成3)年4月1日
- 運営主体/社会福祉法人みのり福祉会
- 職員数/職員数8名(正職員4名・臨時職員等4名)  
内訳:施設長兼サービス管理責任者1名、生活支援員1名、職業指導員3名、事務員兼職業指導員1名、目標工賃達成指導員1名、職業指導員補助1名
- 定員/20名
- 利用相談窓口/当該施設、中部地区内の障がい者地域生活支援センター



福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

### 利用者との関係に魅力を感じながら

就労継続支援B型事業所「向山ブルースカイ」

目標工賃達成指導員 梶田 昌子さん



入職後、障がいの特性について先輩から教わりながら、研修でも学ぶうちに、少しずつ理解できるようになりました。しかし、同じ障がいの名でも一人ひとりの特性が出る場面が異なります。「それぞれの利用者への対応の仕方について、その日の出来事などを職員間で話し合いながら現状を共有し、変化に合わせて利用者としていけるように日々学んでいます」と前向きです。

「担当利用者のケース記録を行い、必要な支援について考え、サービス管理責任者である施設長とも相談をし、

適切な支援を目指しています。作業支援は、自主製品の焼菓子クレープなどの菓子製造や配達を利用者と一緒に行います。そして目標工賃達成指導員として、主体となる菓子製造作業の収支には特に気を配り、リーダーや施設長と相談しながら進めています。そうした中で、休みがちだった利用者が増え、作業範囲が広がり、任せられる作業が増えるなど、「頑張っている利用者を見て、自分自身も頑張らないと」と、励みにしています」と、梶田さんは笑顔を見せます。



「保険外交員の仕事から転職しましたが、福祉の仕事は初めてでした。私でも対応ができるのか不安はありましたが、興味もあり、やってみようと思いましたが」と、梶田昌子さんは話します。

適切な支援を目指しています。

「福祉の仕事は大変でもありますが、利用者から感謝されたり、笑顔が見られたときの喜びは何事にも代え難く、この仕事に就いて良かったと思えます」と、梶田さんは魅力を感じています。

そして「日々利用者とのコミュニケーションを取り、他愛のない話でも重ねていくことで利用者や打ち解け、困りごとを聞いたり、相談されるようになると、やりがいにつながります」また

### 職場の一員として一緒に仕事をする楽しさ

就労継続支援B型事業所「向山ブルースカイ」

職業指導員 谷口 和弥さん

障がい者施設での勤務経験はありませんでした。が、営業やサービス業での経験から、その「コミュニケーション能力が施設の自主生産部」お菓子工房「トリシエ」の売上げ向上などに活かせると思い入職しました。

「当初、様々な障がいのある人たちと向き合うには、マニュアル通りではなく、一人ひとりに合わせた対応が重要だと感じました。まず、「コミュニケーションを図りながら課題に取り組んでいます。利用者をどう支援していくかは、利用者を尊重し、あせらず見守る中で方向性が見えてくると思います」と話し、「大変な業務ですが、変化に合わせた対応を行うことにやりがいを感じます」と微笑みます。

職業指導員としての利用者のケース記録や、担当する就労支援業務では、主に菓子の販売、納品、営業などを行っています。また、納品先との企画相談、新規取引先営業、配達陳列、売上げ管理、販売スケジュール管理のほか、外商販売にも力を入れていきます。

県内での各種イベントなどに参加した際には、一緒に行った利用者も楽しそうに、「利用者と同じ職場の一員と感じ一緒に販売する姿は、私自身の勉強になります」と、姿勢を正



します。

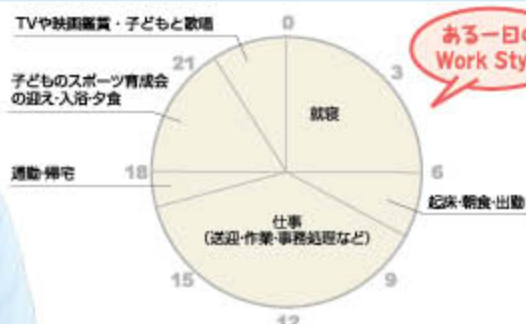
「どんな仕事でもストレスや悩みはありますが、利用者に私たちの表情や態度で嫌な思いをさせないようにすることがないよう、普段からストレスを発散するように心掛けています」と話す谷口さんは、自分自身の感情やメンタルコントロールの大切さも感じています。



そして「菓子の製造で、地元農家と協力しておいしい果物や野菜などを使った企画や試作をするなど、支援とは別のやりがいと魅力もあり、この仕事に就いて良かったと思っています」と話します。

# 福祉専門職の紹介 就労継続支援事業所「生活支援員」

利用者が“できること”を増やす喜び



社会福祉法人みのり福祉会  
就労継続支援B型事業所「向山ブルースカイ」  
すぎたに はやと  
生活支援員 杉谷 隼利さん

「生活支援員」は、障がい者や高齢者の生活サポートを行なう職種の広い仕事ですが、障がい者の就労継続支援事業所では、利用者が就労の機会を得ながら自立した生活ができるよう、相談、助言、職業訓練、作業指導、就労支援などを行い、自立や社会参加を促す支援を行います。必須の資格はないものの、利用者の尊厳を重んじる姿勢、礼儀と共感をもって利用者に接する姿勢が求められます。

利用者にとって困難なことでも、支援  
魅力などを教えてください

利用者にとって、安全で安らぎがあり、毎日通所したいと思える楽しい施設であるよう、コミュニケーションを大切にしています。そして誰もが、できるという自信や喜びを感じられるよう、困難かも知れない作業でも、まずは

主な仕事は、送迎ケース記録・安全管理・紙器加工作業を行なっています。一日の大半は、受託作業の紙器加工をしていることが多く、利用者には困難なコンプレッサーを使用した断裁作業を任されています。通所施設なので、生活面ではある程度自立している人がほとんどですが、生活支援員として利用者の要望や困り事の相談を受け、作業や生活面において知的・身体・精神障がいの特性や特徴を考慮して支援を行っています。

現在の仕事の内容を具体的に教えてください



利用者の相談を受ける杉谷隼利さん

利用者にとって、安全で安らぎがあり、毎日通所したいと思える楽しい施設であるよう、コミュニケーションを大切にしています。そして誰もが、できるという自信や喜びを感じられるよう、困難かも知れない作業でも、まずは

仕事をやるうえで大切にしていることは、どのようなことですか？

以前、福祉職場で調理員として勤務していましたが、利用者や直接関わることが少なかったため、入職当初は不安感や利用者の思いが分からず、自分の中のあたりまえが通用しないと悩んだ時期もありました。しかし、それぞれの障がい特性や、利用者一人ひとりの特徴、性格を知ること、自分の得意分野の物作りや調理でも活かせることがある、と気づき、利用者の成長を実感する度、長かつたと思います。

「この仕事に就いて良かった」と思うのはどんな時ですか？

の仕方や工夫によって、できることが増えていく様子が見られ、自分自身が直接的に役に立っていると感じられ、やりがいがあります。利用者の成長は、その人の家族にとっても喜びとなり、その喜びの声を聞けたときは、充実感自信にも繋がります。

休日には、釣りやゴルフによく出掛けていますが、今は子どもがチームスポーツをしていて、練習試合や大会がよくあるので、子どもたちの会場への送り迎えや応援に行きます。そして、子どもたちの頑張っている姿を見て感動し、時には泣いてしまうこともあります(笑)。今ではない感動を得ることができ、子どもたちや関係者の人たちとの関わりも楽しめており、とても充実しています。

休日は何をしておこなっていますか？



ダンボールの型抜きをする杉谷隼利さんと利用者

どついたらできるようになるか、を考え、一つでも多くの、できる作業を増やせるよう工夫を凝らすことも大事だと思っています。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

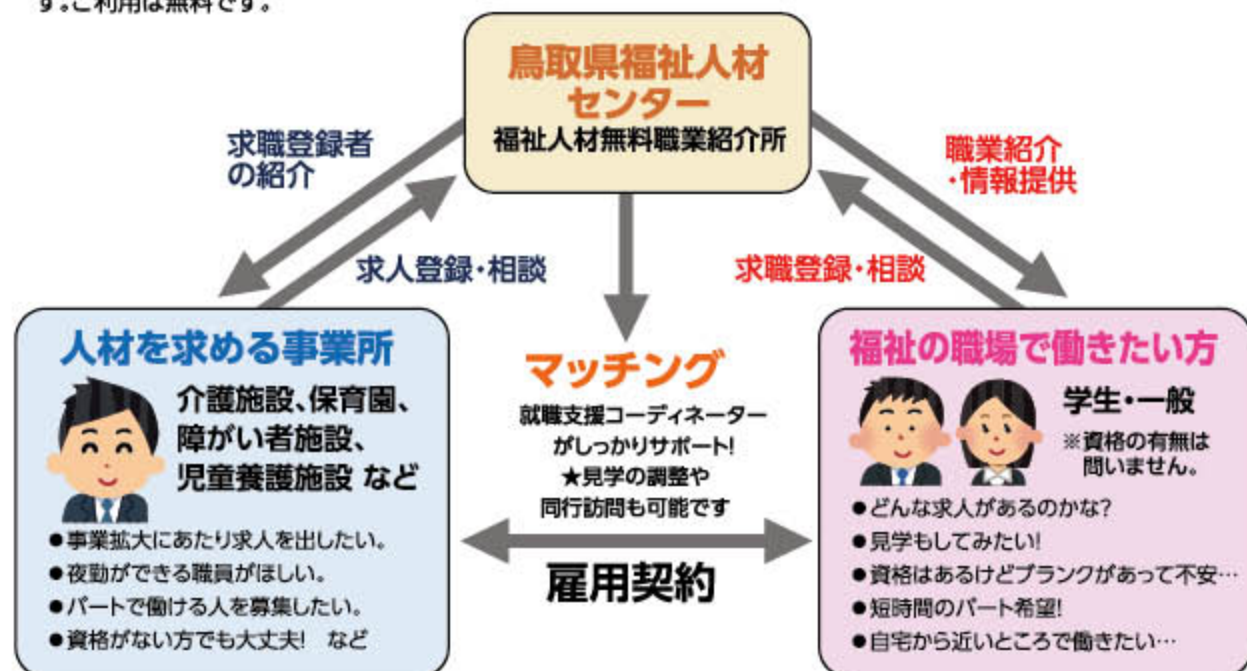
## 鳥取県福祉人材センターのご案内

# 福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

### ■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行います。また、人材をを求める事業所には、求人条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



### 福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



### 人材をを求める事業所への就業あっせんの流れ



まずはご相談ください!

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341  
【開設日】 月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人登録・求人票の閲覧ができます。

FUKUSHI-JOB SEARCH  
**福祉のお仕事**

福祉のお仕事

検索





## とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

特定非営利活動法人  
全国要約筆記問題研究会 鳥取県支部

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい/ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体についてその活動や想いを紹介します。

[ホームページ] <https://www.torivc.jp>



インタビューに参加いただいた皆さん(向かって左から新路淑子さん、林明美さん、小島知子さん、中山みゆきさん、井上京子さん、内藤伸江さん)

## 文字情報の必要性を社会に広めたい

「特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会」(以下「主要研」)は音声情報バリアフリー社会の実現を目指す全国規模の法人です。その鳥取県支部(以下「県支部」)では①文字情報の必要性を社会に広める、②難聴者との交流、③要約筆記技術の研鑽などを柱に要約筆記者や難聴当事者の方など正会員30名で活動しています。

入会の経緯を会員の皆さんに聞いてみると「再会した知人が難聴者になつており、その人が体験談を話す筆談セミナーへ参加したのがきっかけです」(井上京子さん)、「要約筆記のことをもっと知りたいと主要研に入会しました。鳥取県にリターンしたときに県支部からすぐに連絡があり、活動に参加させていただいています」(新路淑子さん)「要約筆記者に登録後、先輩に誘っていただきました。いろいろな情報が入手でき、県全域での人のつながりができました」(中山みゆきさん)と様々です。

県支部には当事者の方も入会しています。小島知子さんは中途失聴者です。後述の筆談セミナー等の機会で体験談を語り、当事者本人でなければ分からない心の動きや葛藤を伝えます。「聞こえなくなった時は外出や人に話しかけられるのも怖く感じていましたが、文字情報があることで助けられました。書いたら伝わることで、文字情報があることで私たちが「社会や人と関わること」ができるようになってほしい」と小島さんは語ります。

## 気軽に筆談セミナー

活動の一つに「気軽に筆談セミナー」があります。

筆談も文字情報による「コミュニケーション方法の一つです。紙とペンがあれば誰でもできますが、分かりやすく伝えるにはコツがあります。セミナーは誰でも無料で参加することができ、当事者の話を聞き、筆談のノウハウを学ぶことができます。取材した日の実習では二人一組で伝える側/伝える側に分かれ、食事会の日程調整や道順の説明など具体的な想定をもとに筆談を体験していました。

「以前は活動にあたり大きな目標が必要なのではないか?と無力感を感じていましたが、主要研の全国集會に参加する中で、まず隣にいる人を二人でも助けることができれば、と気持ちが楽になりました。そこで「文字サポート」のことを知り、一緒に行った人と「鳥取県でもできれば良いね」と話したのがセミナーを始め



気軽に筆談セミナー

たきっかけです」と振り返るのは事務局を担当する内藤伸江さんです。現在は鳥取県の事業として公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が受託し、県支部は当事者団体等と共に、講師や当日の運営等で協力しています。

なお、県支部では依頼があれば民児協、学校、役場などでも個別に筆談セミナーを開催しています。

当たり前前の生活が  
当たり前前にできる社会を

「最近筆談で対応する窓口も増えてきました。だんだんと筆談のつながりが出来てきたと感じています。難聴の方も当たり前前の生活が当たり前前にできる環境がもっと広がってほしいと思います」と林明美さんが話すように、県支部の皆さんが県内の関係者と続けてきた取組が少しずつ広がっています。

一方で文字情報支援において要約筆記者が不足している現状もあります。県支部では要約筆記を広める活動も行っています。興味のある方はぜひ御相談ください。

また、県支部では研鑽のための研修会や当事者の方との交流会なども実施しています。「和気あいあいと活動していますのでぜひ門を叩いてください」(内藤伸江さん)

## 特定非営利活動法人

## 全国要約筆記問題研究会

## 鳥取県支部

事務局/内藤伸江

## 【問合せ先】

電話 080-560-0290(内藤)  
E-mail: zenyototori@yahoo.co.jp

## 特定非営利活動法人「ピアサポートつむぎ」

# 生きづらさのある子どもや家族の 心の居場所となるように

発達障がいの子どもの家族のための「保護者のピアサポートの会」と、不登校ひきこもりの親の会である「虹の会」の2つの親の会が協働して、2021年に「ピアサポートつむぎ」は発足しました。翌年にNPO法人化して、活動拠点となる常設の居場所「つむぎ」を開設。ボランティアを含めた多彩なスタッフとサポート体制で、困り感のある子どもや家族が孤立することなく、地域で安心して生活できるよう活動を充実させています。



外観

### 当事者の視点に 立った支援活動

県中部を中心に活動していた2つの親の会は、ピアカウンセリングや研修会、情報交換会などを続けていました。そして、ピアサポートの会代表の河本純子さんと虹の会代表の遠藤明子さんが出会い、共通することがとても多いことから共感し、それぞれがもつ知識、見識、スキルなどを集約させ、当事者目線に立った支援活

動を一層充実させるためにNPO法人を設立しました。

活動は、不登校やひきこもり、発達障がいなどの困り感を抱える子どもや若者、その家族や支援者などに対して、その人たちの視点に立っていつでも相談ができ、安心できる居場所づくりとサポートを行っています。

また、地域の理解を促進するための啓発活動と、困り感のある人が所属する学校、職場や地域と連携した環境調整。そして、居場所の機能を活かした情報交換や学びの活動、就労支援など、本人や家族のニーズに合わせた多彩な支援活動に取り組んでいます。



「まだ、人はこうあるべきという考え方の枠組みや偏見があります。その枠組みを緩めましょう」と話す理事長の河本純子さん



「押しつけない、決めつけないで受容する心で変われるきっかけを」と話す副理事長の遠藤明子さん

### 地域のみんなで つくられる居場所

居場所つむぎは、倉吉市内の中古の2階建の建物を改装して開設されました。70㎡の作業場だった1階部分は、床や壁がはがれていましたが、ボランティアや子どもたちと職人の協力も得ながら自分たちの手で修繕を行い、見違えるほどきれいな多目的ホールとなりました。

2階には、個別の相談に応じたりする相談室や学習室などがあります。寄贈された玩具や絵本などを備えた「のんびり部屋」では、子どもたちが自由に過ごすことができます。備品の多



学習室

くは、小学校で使われなくなった机や椅子を使うほか、寄贈された家具類に加え本棚も手作りで改修費を抑えました。

居場所つむぎの開所は、人から人へと伝わり、「僕、来てもいい？」「カードゲームがしたい」と、子どもや若者たちが自ら遊びに来てくれました。また「勉強を教えるのが得意です」「ゲームの相手になります」「ボスターのデザイン書きます」「何かできるこ



鳥取県ボラセン  
キャラクター  
「はーちゃん」



17名のスタッフと約15名のボランティアは多彩です。公認心理師、認定心理士、保育士、看護師、介護福祉士、教師、特別支援教育士、調理師などの有資格者のほか、各種ゲームの名手、ペアレントメンター、読書アドバイザー、農業や釣りなどの名人、菓子作りの名人、アートやICT活用の名人に加え、不登校経験者、ひきこもり経験者、発達障がい当事者などがおり、子どもや親の個々のニーズに応じて対応するようにしています。元不登校の鳥取環境大学2年生

## 多彩なスタッフによる 多様な支援

とありませんか？」などのうれしい声が多く寄せられました。そして、保護者も「ここだったらゆっくりできる」「自分の居場所だと、つむぎにいる時間は、思いを語り、肩の力を抜いてゆっくり過ごせる場所になつていきました。



のんびり部屋

きちんと勉強する必要性を感じ、公認心理師と特別支援教育士の資

## 共感する多くの人が 「伴走者」として

た「学習支援(ヨッシークラブ)」と「就労支援(オケークラブ)」などがあります。また、不登校や発達障がいに対する理解を深める「出前講習会」などの理解促進啓発活動、スタッフの資質向上とサポーター養成プログラムの研修会開催などの人材育成事業など、幅広い支援メニューがあります。



ボランティアの北中健太郎さん

でボランティアの北中健太郎さんは「みんないろいろな事情があります。ここは決まりや縛りがなく、伸び伸びとやりたいことができる貴重な場所です」と笑顔で話します。そんなスタッフたちが、特技や能力を活かした支援事業も多種多様です。まず、安心して自分らしく居られる「居場所づくり(つむぎカフェ)」から、イベントや体験活動、心理士などによる個別の「相談支援」とグループでの「ピアカウンセリング」や同じ経験者からの「ピアサポート」、一人ひとりの個性に応じ

格を取得した理事長の河本純子さんは、「私たちにとってこの活動は、すべきことでもあり、やりたいことでもあります。不登校やひきこもりについて、育て方が悪かった」と悩みがちですが、決してそんなことはありません。学校に行かなくては、就職しなくては、何かしなくてはという気持ちもありません。いまその当事者と向き合ってみ守り、あせることなくゆっくりと伴走者として寄り添うことが大切です」と、相談者に向き合う時の心構えを話します。副理事長の遠藤明子さんは、「同じ経験をして寄り添ってきた当事者として、同じ立場で相談支援を行うことで、困り感のある子どもや若者やその家族は、今まで誰にも理解してもらえなかった想いや悩みが理解され、気持ちに楽になります。一人じゃないこと、受け止めてくれる人がいること、何か方法があるとわかることで次のステップに進めます」と、相談しても理解してもらえなかった経験から、一歩を踏み出すことの大変さや、言葉にできない迷いや不安も痛いほど理解している言葉です。



NPO法人での経験がある事務局長の市川義章さんは「任意団体では、行政や社会へのインパクトがなく組織立った動きも乏しかったが、法人化により実績をつくり持続させたい」と話します

ピアサポートつむぎは民間組織なので、行政や既存の福祉機関にできない隙間の支援もフットワークも軽く、当事者のニーズに合わせて実施できます。また利用者の視点に立って、利害関係のない組織の壁を超えた情報提供ができます。そして地域や年齢に関係なく相談を受け付けています。

### 特定非営利活動法人

### 「ピアサポートつむぎ」

理事長 河本純子 副理事長 遠藤明子

「問合せ先」

鳥取県倉吉市小田79番地15

電話090-2097-9821(遠藤)

ホームページ

<https://sites.google.com/view/npo-tsumugi/>

E-mail: [tortori.tsumugi@gmail.com](mailto:tortori.tsumugi@gmail.com)



この日のイベント「段ボールハウスづくり」は、形に拘らず、自由な発想にまかせて、子どもも大人もスタッフも一緒に作って、一緒に遊びます

## 令和5年度 中部地区高齢者健康運動会



開催式にて 2024ねんりんピックPRの様子

中部地区高齢者健康運動会を、令和5年9月29日(金)倉吉体育文化会館にて開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中部地区では令和2年度から中止していましたが、4年ぶりの開催に、会場では喜びの声が上がっていました。

この運動会は、スポーツ競技を通して、日常生活における健康づくりや仲間づくりの大切さを認識し、活力ある長寿社会をつくることを目的として毎年県内3地区で開催しています。

開催にあたり、選手の皆さんに安心して楽しんでもらうため、これまでの運動会とは異なり、半日開催や参加人数を減らすなど規模縮小をし、形式を変更したプログラムとなりました。競技も個人種目の福つり、団体種目の玉入れとラダーゲッターの3種目に減らしています。団体種目については市町村対抗とし、上位3チームを表彰します。そして、3地区すべて競技を終えた後、各種目1位のチーム得点により、県下1位を決定します。

ラダーゲッターは、シンプルなルールで誰でも簡単に楽しめるニュースポーツです。離れたところにあるラダー(ハシゴ)に向かって

し、活力ある長寿社会をつくることを目的として毎年県内3地区で開催しています。

開催にあたり、選手の皆さんに安心して楽しんでもらうため、これまでの運動会とは異なり、半日開催や参加人数を減らすなど規模縮小をし、形式を変更したプログラムとなりました。競技も個人種目の福つり、団体種目の玉

ボールを投げ、バーに引っかかったボールの合計得点を競います。事前に練習され、本番に向けて力を入れている地域もあり、当日は手慣れた様子でボールを高得点のバーに投げる選手や、初めてでも1回目でコツをつかみ、2回目は高得点をたたき出すチームも多く、最後までどんな結果になるかわからない白熱の展開に、選手だけでなくスタッフも思わず食い入るように観戦し、大いに盛り上がりました。

ともに笑い、応援し、時には勝負をかけて競い合う。これが高齢者の運動会です。これまで長い期間、コロナの影響から、地域や地区で集まる機会も減ってきていましたが、今回いろいろな方と交流ができた「久しぶりに体を動かして楽しかった」等の嬉しい声をいただきました。

高齢者健康運動会は他にも、西部地区は10月20日(金)に米子産業体育館で行い、東部地区は11月9日(木)に鳥取市民体育館にて開催しました。

### 中部地区成績

- ◆玉入れ 優勝 倉吉市C
- ◆ラダーゲッター 優勝 三朝町A



ラダーゲッター



玉入れ



福つり

## 花を咲かせて笑顔の交流



観光に来られた方々を快適に迎えようと、プランターや屋内に花を飾り続けておられる、倉吉市東岩倉町にお住まいの大澤久代さん（74歳）にお話を伺いました。

大澤さんの町内には、倉吉市が指定する有形文化財の「倉吉淀屋」があります。約20年近く前に



県内の素敵な高齢者を同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。

運営委員会が設立され、東岩倉町町内会は「倉吉淀屋の会」として活動に協力することになりました。以来、古き良き建造物の見学や町並み歩きを楽しむ観光客向けのイベント等を行っています。何ったとき、軒先のプランターにはペゴニアの可愛らしいピンクの花が、心地よい雰囲気を持ち、屋内では七夕祭りの準備が進められていました。

大澤さんと地域の人は、年間を通して計画を立て、「倉吉淀屋」の軒先のプランターに、ペゴニア、ゴニア、綿など、季節に合わせて種から育てておられます。特に綿の栽培にはこだわりがあります。

「倉吉淀屋」が江戸時代倉吉を代表する商家で、主に稲こぎ千刈・米・綿等を商っていたことから、綿を栽培しようと決められたそうです。これまで、大澤さんと町内の女性達は、綿の栽培に試行錯誤してこられました。今では「5月にポットに種をまき、6月〜7月定植して、花が咲き、やがてポール状の実が付く。9月ごろになると、実が割れて綿が出てくる」と軽やかに説明されるのを聞き、これまでの苦労からコツをつかみ上手くなりました。長年の経験を感じました。

また花の好きな大澤さんは独自で、屋内の各所に沢山の花を生けておられます。花材は自分の畑で



育てたものや、自然にある草花だそうです。若いころから植物が好きで、草花の美しさ、可憐さに魅了されていると優しく話されました。何気なく草むらにある植物でも、花びんに入ると印象が変わり、清楚な雰囲気を醸し出します。「観光客の方々にも、花の名前を聞かれます」そう話された大澤さんは「お話しが弾み喜ばれて、ますますそうした交流が、頑張る意欲になつているとおっしゃいます。」

そのほかにも「春を楽しむ会」として町内総出で、一緒に山菜料理やヨモギもち等を作って賑わう集い、月1度の「さんさんクラブ」、「綿を紡いで糸になる」等々、地域の仲間との楽しい行事もあり和気あいあい盛りに上がるそうです。

大澤さんの今は亡きご主人の俊二さんは、「倉吉淀屋の会」が発足した際、運営委員会の会長でした。大

澤さんは当時の町内会の活動を、楽しかったと懐かしそうに話しておられました。現在の町内は、時代も変わり、人口も減り高齢化しています。その中でも前向きで元気な大澤さんは、高齢の方々の支え手です。これまで地区の給食ボランティアもされており、行動力のある方です。

大澤さんは「今好きなことが出来て皆さん喜んで下さるのが嬉しく、家族も「がんばって!!」と応援してくれる」と、充実した日々をお過ごしのご様子でした。これからも地域や「倉吉淀屋の会」に携わり、多くの人々に元気を与えられることでしょう。



取材を終えて一言  
米田 陸栄さん(倉吉市)  
取材の後、「これから頼まれたことのお手伝いがある」と出かけられました。高齢化が進む中で、地域の方々にも親しまれ、いつも笑顔で、生き生きと過ごされている姿に接して、高齢の私も、なんだか心嬉しくなりました。

## ねんりんピックはばたけ鳥取2024 大会ボランティア募集



あおや かみじろう

## 第36回全国健康福祉祭とっとり大会

## ねんりんピックはばたけ鳥取2024

多くの県民に大会へ参加していただき、全国から集まる選手・役員等を鳥取県ならではのおもてなしの心で温かく歓迎するとともに、式典やイベントをはじめ、大会の円滑な運営を支えていただく大会ボランティアを広く募集します。

■募集人数: **延べ1,000人程度**

■募集期間: **2023年6月7日(水)～2024年5月31日(金)**

## ●活動内容: 事前PR活動・ミーティング(企画・提案等)、大会運営補助等

※詳しい活動内容、日程などは下記ホームページでご確認ください。

## ●応募方法: ボランティア応募フォーム(右記のQRコード)より申し込み、または応募用紙に必要事項を記入の上、下記応募先にご提出ください。

※申込時に18歳未満の方は、保護者の同意が必要となります。

持参の場合は、平日8時30分から17時までを受付時間とします。

応募フォーム  
(個人用)

ホームページ

## 【応募・お問合せ先】

鳥取県社会福祉協議会 ねんりんピックはばたけ鳥取2024 ボランティアセンター

TEL: 0857-59-6338 FAX: 0857-59-6340

メール: nenrincv@tottori-wel.or.jp ホームページ: <https://www.tottori-wel.or.jp/nenrin36/>

## 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

## ボランティア活動保険

商品パンフレットは  
こちらから  
(ふくしの保険ホームページ)



## 保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術	入院中の手術	65,000円		
	保険金	外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	550円

\*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

## &lt;重要&gt;

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途退会による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



## ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

## 送迎サービス補償

(傷害保険)

## 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

## 団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引渡先〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

## 取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区豊が関3丁目3番2号 新豊が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

## 鳥取県福祉研究学会第17回研究発表会 研究発表募集中

### 【学会からのメッセージ】

何度も試行錯誤を重ね、ようやく生み出される成果があります。少し視点を変えるだけで思いがけない発見をすることもあります。

私たちは、皆さんのこうした努力を応援し、専門性やノウハウを共有して、鳥取地域の福祉社会の発展向上を図りたいと思っています。

研究発表は、社会福祉に関わる活動、研究等を行っている方が日頃からの成果を発表する場です。また、それは「自らを試し、自らを磨くこと」に他なりません。

皆さんの意欲的なチャレンジをお待ちしています!!

募集期間: **令和5年 8月1日(火)～令和5年 12月15日(金)**

### 1 発表対象者

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究をしている者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

### 2 募集内容

口述発表とポスター発表の2種類あります。※既に職域・職能団体の研究・研修会で発表済みの内容についても対象です。(県内外を問わず)研究及び発表にあたっては、鳥取県福祉研究学会研究倫理要綱を遵守してください。

(1)口述発表(奨励賞の該当区分)  
分野別の発表を募集します。

No	分野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援、児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

(2)ポスター発表(奨励賞の非該当区分)  
特に分野を分けての募集はしません。

### 3 研究発表会

開催日: **令和6年 2月24日(土)** 10:20～14:45 (予定)

会場: 鳥取看護大学・鳥取短期大学(倉吉市福庭854 電話0858-27-2800)

### ●お問合せ・申込み先

福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

詳しくは  
こちら



ホームページ

当日は一般の方の参加も歓迎します。発表をぜひ聞きにおいでください!

# HOTeyeギャラリー

## 伯耆みらい 作品紹介



今年で設立21年目を迎えた伯耆みらいでは、絵を描くことが好きな方々が集まって月に1回のアート活動に取り組んでいます。活動を始めて13年間の月日が経つ中で、「鳥取県障がい者芸術・文化作品展あいサポート・アートとっとり展」や全国初の3Dの「鳥取県パリアフリー美術館」、また地元伯耆町での作品展等にたくさんの楽しい作品を出展しています。“継続は力なり”の思いを大切に、今年は写真など新しい分野にも取り組むなど、“好き”なアート活動を続けていきたいと思ひます。

### 【松浦 真央さんの作品】

絵を描くことが好きな伯耆みらいのなかまと一緒に絵を描くことがうれしいです。



【笑顔になるやさしいおでん】  
サイズ:W(540)×H(380)



【夏から秋へ】  
サイズ:W(770)×H(520)

「角朋美さんの作品」  
たくさん色をつかって描きました。絵を描くと、伯耆みらいで仕事をするのが楽しいです。

## 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)  
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail [soumu@tottori-wel.or.jp](mailto:soumu@tottori-wel.or.jp)

福祉人材の  
求人・求職  
の窓口です

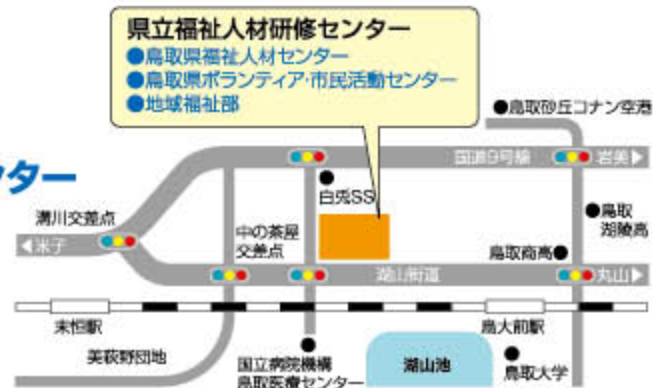
**鳥取県福祉人材センター**  
TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341  
URL [https://www.tottori-wel.or.jp/jinza/shigoto\\_top/](https://www.tottori-wel.or.jp/jinza/shigoto_top/)  
e-mail [jinza@tottori-wel.or.jp](mailto:jinza@tottori-wel.or.jp)

ボランティア活動の  
幅を広げる  
活動を応援します

**鳥取県ボランティア・市民活動センター**  
TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341  
URL [https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol\\_top/](https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/)  
e-mail [vc@tottori-wel.or.jp](mailto:vc@tottori-wel.or.jp)

元気な高齢者の  
生きがい・社会貢献  
を支援します

**明るい長寿社会づくり推進事業担当**  
TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340  
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/chiki/kotobuki/>  
e-mail [kototori@tottori-wel.or.jp](mailto:kototori@tottori-wel.or.jp)



本誌について、また、福祉に関することについて  
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

